

瀋陽駐在員事務所



新しく開業した5星ホテルの25階にあるロビーより撮影

瀋陽のホテル競争

瀋陽の金廊と言われる主要幹線「青年大街」沿いに5星ホテル2軒が開業します。瀋陽市内の5星ホテルは地元情報誌によると12軒あります。今回2軒が新たに開業すると全部で14軒です。瀋陽には“瀋陽故宮”含め市内に3つの世界遺産があり、中国国内はもちろんのこと世界から観光客が訪れますが、やはり通年を通して安定的にホテルの稼働率を維持するにはビジネス客、所謂“出張者”の集客もとても重要です。今回新たに開業する5星ホテルでは、外国人出張者の集客を図るために、日本語、英語、ドイツ語など外国語を話せる営業マンのヘッドハンティングが行われているようです。しかし、ただ単に外国語が堪能だけでは駄目で、如何に瀋陽に進出している外国企業とのパイプを持っているかが重要だそうです。瀋陽に進出している外国企業が出張者を受け入れる時、宿泊ホテルの選定と手配はほとんど現地企業側が対応することから、価格とサービス面・安全面・設備面などが見合えば、次回以降もリピーター客として見込むことができるからです。今後、5星ホテルでは顧客ニーズを如何に汲み上げて、顧客満足度を高めるか、従業員の質、設備面・セキュリティー面等、様々なCS競争が激しくなりそうです。

山田 光紀

(財)日中経済協会北京事務所 札幌経済交流室

中国の結婚式



新婦を迎えに行くためのHUMMER

先日、初めて中国の結婚式に参加しました。事前に、中国人の知人から「最近の中国は、若者を中心に

西洋化が進んでいる為、日本の結婚式とあまり変わらない」と聞いていたのですが、やはり大小問わず、日本の結婚式とは異なる点が多々ありました。

最初に驚いたのが、結婚式直前に、新郎が新婦を家まで迎えに行く事。しかも10mは超えるであろうHUMMERに新郎が乗り、その後続には、参列者が乗ったベンツなどの高級車十数台が後を追う。中国で生活しているところの光景は良く見ますが、まさか自分が参加できるとは思いませんでした。新婦の家に着いてから、新郎には愛を確かめる為の様々な関門があり、小職も参列者としてその様子を見ておりましたが、まずは、玄関に新婦の両親や親戚が立ち、新郎に対して「何をしに来た?」「娘を本当に愛しているか?」などの質問が。クリアして中に入れたかと思ったら、新婦がいる部屋には友人が待機。ドア越しに「〇〇ちゃんの好きなところを言え」など皆の前で恥ずかしい質問があり、新郎は新婦に会うまでに数十分掛かりました。やっと連れ出せると思いきや、今度は外に出られないように新婦の靴が隠されており、部屋の中で靴探し。外に出てからも、新婦の足を地面につけてはいけないという事で、新郎がお姫様抱っこで車まで。これでは、結婚式が始まる前に新郎はクタクタになってしまい、私には日本の結婚式が合っていると再認識した1日でした。

佐藤 孝太郎

ユジノサハリンスク駐在員事務所



サハリン郷土博物館



コンサート

ロシアの祝日 「ロシアの日（6月12日）」

6月12日は日本の建国記念日に当たる『ロシアの日』です。1990年、ロシア共和国がソビエト連邦に対し、国家主権（独立）を宣言した日です。そして、その丁度1年後のこの日、ロシアの初代大統領にエリツィンが選ばれ、その年1991年末ソビエト連邦が崩壊し、新生ロシアが本格的にスタートしました。

この日は好天に恵まれ、絶好の行楽日和となり、ここユジノサハリンスク市でも公園、広場で各種記念行事が開催され、カップルや家族連れで賑わいました。代表的な観光名所のサハリン郷土博物館前では当地でも有名なプロのミュージックバンドがコンサートを開催。我々の仲間であるサハリン在住の日本人がひょんなことからギターで飛び入り参加することとなり、在住日本人が総出で応援に駆けつけ、会場は盛り上がりのピークに達しました。この日は文化面でも日本人パワーが目立った一日となりました。次回は私も文化交流の一環として、カラオケマイクを使って、ロシア人の前で日本の心である演歌でも披露しようかと思います（笑）。

三上 訓人